

経営理念	誇れる野市中を、みんなの力で！ ～「『分かった！』と言える授業を！『ほっ！』とできる学校を！」めざして～ Challenge & Jump 「子どもたちに学びを！ 保護者に安心を！ 教職員にやりがいを！」 （公教育としての責任と地域からの信頼） ～「やさしさ」と「きびしさ」の統一～ ～すべての価値判断は「子どものために」を合言葉に！～
------	---

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価(H30)		改善策等
		達成状況	評価	考察	評価	
豊かな心 命の尊さを重んじ、 自他を大切に 豊かな人間性の育成に 努める。	①基本的な生活習慣の定着。 (学校評価アンケート肯定群85%以上)	「早寝、早起き、朝ごはん等の基本的な生活習慣が身に付いている」の質問項目の肯定群は、生徒86.4%、保護者73.6%、教員86.1%であった。朝食摂取率は92.8%と高い値を得ている。	A	保健通信を定期的に発行するなど取組を継続してほしい。	A	規則正しい生活習慣がさらに定着するよう、保健通信や学校だよりを通じて、保護者の意識の啓発を継続して行っていく。
	②不登校生徒や教室に入れないなどの課題のある生徒への支援を行い、その減少に努める。(不登校生徒20人以下に減少)	2学期末不登校生徒(20日以上欠席)は、32人である。支援会や医療機関等との取組は行っているが、厳しい現状である。	C	対応の厳しさがあるなか、個別の対応をするなど手厚い対応を行っている。不登校生徒を20人以内にするにはできていないが取組内容としてはBである。	B	現在行っている、定期的な支援会の実施、外部機関・SC・SSWとの連携を一層強め、組織的に対応を進めていく。また、「魅力ある学校づくり」の事業の推進に努めていく。
	③自己肯定感を育む勇気づけや場の設定を積極的に行い、自尊感情を高める。(継続調査 昨年度以上)	道徳意識調査の自尊感情の項目「自分には良いところがある」は、71.5%であった。5月より2.3ptとアップし、昨年の数値より4.5ptアップした。	B	道徳科の授業の充実や各行事の取組の効果が自己有用感につながったことが分かる。	B	道徳科の授業の充実や全教育活動を通して生徒自身が目標を掲げ達成感を抱かせる取組や肯定的評価を行っていく。
	④学級活動や生徒会活動を通して、コミュニケーション力や連帯感とともに、生徒の自治力を育成する。(生徒アンケート80%以上)	「問題が起こった時に、みんなで話し合っ解決することができる」の質問項目の肯定群は83.4%であった。「お互い良い所を認め合うことができる」の質問項目の肯定群は87.1%という結果であった。	A	行事等を通して、生徒と教員が一つとなって取り組んでいる。また、生徒会が中心となって、生徒の自治力が向上していることが分かる。今の取組を継続してほしい。	A	生徒会の活性化をはじめ、生徒自体の活動や自治的な取組がさらに活性化できるように組織のつながりを強化していく。また、生徒を軸においた学級づくりができるように若年教員を対象としたOJT研修を行っていく。
	⑤キャリア教育(進路指導の充実)を推進し、将来の夢や希望をもった生徒を育成する。(生徒アンケート80%以上)	「目標や夢をもって学校生活を送っている」の質問項目の肯定群は82.5%で、昨年より4ptアップした。	B	キャリア教育の視点を取り入れながら授業等を行ったことが目標や夢をもって学校生活を送る生徒数の増加につながったことが分かる。Aに値する取組内容である。	A	野市中学校の実態に応じたキャリア教育の視点(つきたい力)を総合的な学習の時間等に位置づけていく。
	⑥人権教育、道徳教育を充実、推進。(道徳意識調査の肯定的評価昨年以上)	道徳意識調査の「道徳の勉強は好きだ」の項目において肯定群5月69.3%、12月76.7%であった。人権に関わる作品の応募にたくさんの生徒が参加した。〈作文：県優秀(高知県人権啓発センター理事長賞)1、入選2、市優秀1、入選2、ポスター：優秀1、入選2〉	B	人権に関わる多くの取組に参加しようとする努力が分かる。今後も継続して取組を進めてもらい、生徒たちの豊かな心の育成に励んでもらいたい。	B	日々の生徒との関わりの中で道徳に対する意識を高めていくことを継続して行う。人権教育の全体計画や指導計画の見直しを図る。
	⑦学校いじめ防止基本方針に乗っ取っていじめの早期発見や日常の生徒理解に努め、適切な情報共有や対応に努めている。 (学校評価アンケート肯定群85%以上)	生徒理解に努めるため、1月現在約60回の個別支援会を行った。「学校は、子ども達、保護者、地域の意見を聞いてその声を活かしている」の質問項目は保護者66.8%、教員86.1%と保護者と教員との間に大きな差があった。	B	生徒理解に努めるため、1月現在約65回の個別支援会を行っている結果からも、教員たちが保護者に向き合っていることが分かる。	B	個別支援会の取組を通して、保護者の不安を取り除いたり、生徒の様子を見取ることを努力を継続していく。また、この項目内容の評価ができるように学校評価アンケートの見直しを図っていく。

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	学校関係者評価(H30)		改善策等			
		達成状況	評価		考察	評価	
確かな学力	主体的・協働的な学びの育成～生徒一人一人が「分かる・できる」が実感できる学習活動をめざす～	①校内研修や教科部会を活性化し、授業改善に組織的に取り組む。(教員アンケート肯定群90%以上)	組織力向上に関する教職員アンケートは、全項目ほぼ91%であった。定例教科会は1月現在35回実施し、教科主任会9回実施した。校内研修も計画的に行われ、全教員の授業改善への士気が高まった。	B	組織力向上に努めていることは分かるが生徒の学力(数値)につながっていないことは真摯に受け止める必要がある。	B	学力の定着が図れる組織体制の充実を図るために、PDCAサイクルをショートスパンで行っていく。
		②生徒一人一人が「分かる・できる」が実感できる授業づくりを行う。 〈学び合いの重点目標〉 ・ゴールをもたせる ・きくことにおける指導 ・思考力・判断力・表現力を育成するための言語活動の充実 (授業アンケート80%以上)	重点目標における項目について、ゴールをもたせる(目的意識)は、7月80%→12月97%、きくことにおける指導は、7月52%→12月74%、思考力・判断力・表現力を育成するための言語活動の充実は、7月60%→12月71%であった。いずれも改善傾向はみられるが目標値80%に達成していない。	B	学力向上に結び付くような授業改善がまだまだ不十分である。更なる努力や工夫が必要である。	B	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりの研究を進め、また、本校の課題(複数の資料を関連づけて読み解く力や目的に合わせて書く力が不十分)を解決するために「書くこと」を中心においた研究を進めていく。
		③組織的に授業規律の定着を図る。特にきく態度や規範意識を育成する(授業評価肯定群80%以上)	「聴くコンテスト」を年間2回行った。5月の全体平均は76%であった。1月の取組を行っている途中であるが、目標値の80%を達成することは難しい。しかし、教科リーダーを中心に行っているチャイム1分前着席は定着してきており、1分前から学習に向かう姿勢が見える。	B	「きくこと」に対する意識が高まりつつあるが、十分なものとはいえない。チャイム1分前から学習に向かう取組を継続してほしい。	B	小中連携で取り組んでいる「きくこと」の指導をさらなる充実に向けて取り組んでいく。
		④家庭学習の習慣化に努め、予習・復習の質と量を高める。(家庭学習1時間以上70%以上)	家庭学習の実施率 1年77.9%→72.1%、2年61.6%→70.2%、3年76.6%→82.9%であった。全学年において目標を達成することができた。	A	家庭学習を行うことが当たり前の風土を作ってもらいたい。	A	学力の定着を図る家庭学習の意義を改めて生徒たちに伝えたり、タテ(教科)とヨコ(学年)の関連性も大切にしながら、家庭学習の充実にも努めたりしていく。
		⑤複数教員による教科指導や少人数学習の効果的な活用や、個に応じた支援を行う。(学校評価アンケート80%以上)	授業理解に関わる質問項目の肯定群は、生徒79.9% 保護者55.2% 教員63.9%であった。目標値は達成していないが改善傾向がみられる。	B	全教員の授業改善への士気が高まっていることは分かるが、具体的な授業改善が必要である。	C	個別支援が必要な生徒についての効果的な支援方法や見立てを教員と共有を行い、指導方法の工夫や改善を行っていく。
信頼される学校	保護者や地域に開かれた学校づくりに努め、信頼される学校を確立する。	①予防的な視点での生徒指導に努め、落ち着いた学校を維持する。(問題行動発生件数10件以下)	2学期末の問題行動発生率は6件である。昨年より1件増加しているが、落ち着いた学校を維持することができている。	A	今までの先生方の努力や保護者の協力があっての結果であると思う。継続してほしい。	A	生徒の情報交換を密に行い、開発的な生徒指導を引き続き取り組んでいく。
		②参観日や行事等、学校の活動に保護者や地域の方の参加を増やし、地域の教育力の活用を努める。(参観者10%増)	体育祭・文化祭の大きな行事にはほぼ全生徒の保護者が参加してくれた。しかし、参観週間は、各学期約40名の参観者にとどまっている。	B	各行事等に多くの保護者が参加した結果から、保護者の教育への関心の高さが分かる。	B	参加人数の集計方法を見直したり、保護者が参加しやすい環境や内容の改善を図っていく。
		③保護者や地域へ学校の情報を積極的に発信する。(学校評価アンケート82%以上)	「学校が保護者や地域へ情報提供をしている」についての質問項目の肯定群は保護者94.6%、教員94.4%とほぼ同じ結果であった。保護者の結果は、昨年度より、12pt高い。	A	連絡メールや学校便り等を通して保護者に必要な内容を適切に伝えている。今後も継続してほしい。	A	学校からの情報を連絡メールや学校便り等を効果的に活用し、発信していく。
		④学校評価を実施し、学校運営の改善に努める。	年間3回開かれた学校づくり推進委員会を開催した。12月に学校評価を実施した。「保護者や地域の声を活かしている」の質問項目について保護者66.8%、教員86.1%と保護者と教員の間に19.3%の差が生じた。	B	学校評価を学校改善を行う上での効果的な情報として真摯に受け止め、1年間学校運営の改善に生かしてほしい。	B	学校運営を進めていく視点に立って、学校評価アンケートの内容の見直しを図ったり、得た内容を効果的に活用したりするなど、その内容を地域や保護者に発信していく。
		⑤安心・安全な学校づくりを進める。	学校安全計画を踏まえ、教職員と共有を図りながら、危機管理に努めてきたが、自転車の乗り方については、地域の方から注意を受けるなど課題となっている。専門的な講師から話を聞いたり、避難訓練を3回実施したりした。	B	自転車の乗り方について、全校集会、学年集会や学級において啓発活動を進め、保護者の協力を仰いでいく必要がある。	B	自転車の乗り方など地域や保護者と連携し、引き続き安全教室の開催や日頃から生徒の安全に対する意識を啓発していく。

評価基準 A:十分満足 (~80%)
C:もう少し努力すべき (60%~40%)

B:おおむね満足 (80%~60%)
D:大いに努力が必要 (40%~)